透明な角膜に関わるたんぱく質を発見

■同志社大学　中村隆宏准教授は京都府立医科大学と共同で、目の角膜の透明性に関わるたんぱく質を発見した。遺伝子操作によってこのたんぱく質を持たないマウスで実験したところ、目が白濁して失明してしまうことを突き止めた。角膜が濁る病気の治療法開発などに役立つとみている。成果は10日に米の科学誌に掲載される。

研究グループは、成長すると角膜になる「角膜上皮幹細胞」に注目。たんぱく質「ＲＩＧ１」が特異的に存在していることを突き止めた。このたんぱく質を体内でつくれないマウスを作製して機能を調べる実験をした。目の内部で炎症が起きて目の表面にある角膜が白く混濁した。

角膜が損傷した患者を対象に、ｉＰＳ細胞から作った角膜を移植しようとする研究も進む。今回の成果は、より安全で透明性に優れた角膜を作製するのに生かされそうだ。